

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070300569
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	桐生ケアセンターグループホームそよ風
所在地	桐生市相生町1-160-1 (電話) 0277-70-6821

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年12月8日

【情報提供票より】(平成20年 11月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人 常勤換算 13.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	2階	～ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	*光熱費 15,000円 ・ 運営管理費10,000円	
敷金	有 (70,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
又は1日 1,400円				

(4)利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	72歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	赤南診療所 ・ しもやま歯科 ・ 東邦病院 ・ 桐生厚生病院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、1階にあるデイサービスセンターと連携し、音楽療法や入居者の身体機能に応じた機能回復のためのリハビリに努めており、ホームを退居し在宅介護へ移行した入居者もいる。全国で140程の施設を運営する法人として、入居者の最も楽しみの一つである食事を重視した取り組みを行い「そよ風食まつり」を全国の施設で行い、「桐生そよ風」はその一環として全国各地の有名駅弁を毎月1回提供している。また、キノコ御膳等の季節料理や正月等の行事料理を提供しているほか、2種類の月間献立表の中から毎食好きな食事を選択できるように食べる楽しみの支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題の「地域とのつきあい」では地域の人々との交流を促進し、「災害対策」では地域の協力が得られる働きかけを行い改善が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員会議で検討し、運営推進会議の出席率向上や地域情報収集不足の解消策、職員のストレス軽減や解消等について改善に向け話し合いが行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議の構成員として家族代表は2ユニットで一名の方を依頼し、家族代表の都合を中心に会議を開催している。会議では認知症や職員の人材確保等の議題を毎回決め意見交換を行っているが、19年度の外部評価や自己評価の結果報告は行っていない。今後は更に自己評価や外部評価についても議題とする等、運営推進会議での意見を取り入れた取り組みを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や電話で日常生活状況や健康状態等を話し、「グループホームたより」で月間行事予定や行事開催報告等を行っている。徘徊者の家族から入居者がエレベーターを使用するのは危険であり心配なので、鍵をかけて欲しいとの要望があり、ユニットの職員会議で検討し、階段とエレベーターの扉は鍵で開閉している。今後も職員で繰り返し話し合い、安全を確保しつつ本人の思いや身体力を活かしながら過ごせるような取り組みに期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は市街地にあり、近くのスーパーでの買い物や飲食店での外食をしたり、地域ボランティアを受け入れたり、公民館の文化祭や賀茂神社の宵祭り、毎年恒例の桐生祭りを見物し、地域の人達の協力で祭りの席を確保して頂くなど多くの人々との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「私達は高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し 明るく元気で健やかな ヒューマンライフを支えます。」のもとに、桐生ケアセンターそよ風は『[私たちが目指す介護] 愛情・熱意・誠意を持って その人らしい人生が送れるようお手伝い致します。』の理念を掲げている。	○	地域密着型サービスの役割を管理者及び職員で話し合い、地域密着型サービスとしての理念の見直しを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回の職員会議で理念を確認し、入居者が近くのスーパーでの買い物をしたり、毎朝新聞を読んだり、編み物をする人には編み物の用具を用意したり、在宅と同じ感覚で生活できるよう理念を念頭に置いた個別ケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は市街地にあり、近くのスーパーでの買い物や飲食店での外食をしたり、地域ボランティアを受け入れたり、公民館の文化祭や賀茂神社の宵祭り、毎年恒例の桐生祭りを見物し、地域の人達の協力で祭りの席を確保して頂くなど多くの人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を全職員に回覧し、改善に取り組んでいる。自己評価は会議で検討し、管理者が作成している。自己評価の過程で、運営推進会議の出席率向上や地域情報収集不足の解消策、職員のストレスの軽減や解消等について改善に向けた話し合いが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回、2ユニットで一名の家族代表の都合を中心に会議を開催している。認知症、職員の人材確保、地域行事の情報収集等について毎回議題を決め、意見交換を行っている。19年度の外部評価や自己評価の報告は行っていない。	○	今後は更に自己評価や外部評価についても議題とする等、運営推進会議での意見を取り入れた取り組みを期待し、概ね2ヶ月に1回の開催を心がけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	センター長が市の担当課を訪問し、人員配置の疑問点について指導を受ける等情報収集を行っている。計画作成担当者は、地域包括支援センターとの交流を通じて空き情報などの情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話で日常の生活状況や健康状態等を話し、「グループホームだより」で月間行事予定や行事開催報告等を行っている。金銭管理は、個人別出納帳で預り金処理を行い毎月の利用料と共にレシートの本書を添え請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、外部への苦情・相談窓口を説明している。徘徊者の家族から、入居者のエレベーターの使用は危険で心配なので、鍵を掛けて欲しいと要望があり、ユニットの職員会議で検討し、階段とエレベーターの扉は鍵で開閉している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、原則行っていない。ユニット間の異動は、新人職員が多くなったユニットの職員構成の不均衡を是正するためであるが、日常生活でユニット間の交流を行い異動によるダメージを防いでいる。就職希望者には、ボランティア体験を行った後採用し、新規採用職員の夜勤は入居者の顔や名前、性格等を覚えてから勤務させている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が主催する認知症基礎研修等の研修や法人が主催する研修には、役職や経験年数等を考慮し参加させている。受講後は報告書を作成し、会議終了後の勉強会で報告している。また、ケア内容や言葉使い等は日々の業務を通じ指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、グループホーム大会への参加は法人内のグループホーム職員が交互に出席し、各施設のセンター長が集まるセッション会議で大会資料を配付し説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者の自宅や入院先を訪問して生活歴や家族の意向等を調査し、見学や体験入居を行い入居者とお茶を飲んだりレクリエーションに参加してもらうことにより、入居者と会話をしたり職員と接し雰囲気を感じてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭での生活と同じように、洗濯物たたみ、朝の清掃、プランターの水やり等の野菜栽培を、職員と共に行っている。また、入居者の得意とする障子貼りや裁縫・編み物を教えてもらう等共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の目線に立ち話しかける日常のコミュニケーションを大切にし、耳の遠い入居者には身振り手振りや筆談を行いながら意向の把握に努めている。また、意思表示の困難な入居者には顔の表情で意向を推測したケアに心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常勤職員は2人の入居者を担当し、その人のスペシャリストとして本人や家族の意向、身体状況の変化等を記録している。毎月開催されるカンファレンスで担当職員の記録や医師の意見等を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月開催されるカンファレンスで、担当職員の意見を聞いて、3ヶ月毎の見直しを行っている。見直し以前に、身体状況の変化や精神的変化があった場合にはカンファレンスにより現状に即した見直しを行っている。介護計画を2部作成し1枚に署名し返却してもらい、何時、誰が、誰に説明したか記録している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスセンターとの連携を図り、音楽療法や入居者の身体機能に応じて機能回復のためのリハビリに努めている。かかりつけ医の送迎は原則家族が対応しているが、家族の状況や車椅子に移乗できない場合等本人の状況により職員が付き添い説明している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、かかりつけ医の受診は原則家族対応とし、体調等を記載した記録を渡し必要に応じ職員が付き添っている。ホームの協力医は毎週往診し、重度化に伴う指導等も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、医師の指導により、その都度家族の意向を聞き、個人別のマニュアルを作成することとしている。終末期に点滴や胃瘡等の医療的行為が生じた場合は、他の施設を斡旋することを契約時家族に説明し了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の介護の中で、排泄介助等の言葉かけを笑顔で簡単明瞭に話しかけるよう指導している。各種書類は事務室に保管し持ち出しを禁止とし、個人情報の廃棄はシュレッダーに掛ける等プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋で休みたい、テレビを見たい、裁縫をしたい等本人の希望にそうように見守りをしている。散歩に出たい入居者には職員の手が許す限り一緒に歩いたり、食事を食べたくない入居者には置き置きをし後で食べてもらう等一人ひとりのペースを大切にした支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人として食事を重視した取り組みを行い「そよ風食まつり」を全国の施設で行い、「桐生そよ風」は全国各地の有名駅弁を毎月1回提供している。また、キノコ御膳等の季節料理や正月等の行事料理を提供しているほか、2種類の月間献立表の中から毎食好きな食事を選べるよう食べる楽しみの支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室に浴槽が2つあり、気の合う入居者同士で入る人もいる。2ユニットが一日おきに入浴しているので、毎日の入浴も可能である。入浴を拒否する入居者には、時間を置き声かけをしてはいる。入り口に「そよ風温泉」の案内を出し、ユズ湯や入浴剤を使用し色や香りを楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で、部屋の掃除や洗濯物たたみ、野菜の栽培管理等の役割を担ってもらっている。また、季節にはクリスマス電飾の見物をしたり、弁当持参でピクニックに行ったり、回転寿司等へ外食をしたり、ニューイヤーク伝の応援等の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に行ったり、ベランダのプランターで野菜作りをしたり、ベランダを歩きながら外気浴を行っている。また季節には七夕祭りや宵祭りの見物に行ったり、庭で花火大会をしたり、弁当持参のピクニックやスイカ割りする等、月間行事予定表を作成し計画的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターの扉は1階から上がる時はボタンで開閉できるが、徘徊者家族からの要望を受け危険防止のため2階から下りる時は鍵で開閉している。2階の階段の扉は、転落防止と危険予防のため鍵がかかっている。	○	職員で繰り返し話し合い、安全を確保しつつ鍵をかけない運営を工夫されるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施し、うち1回は消防署の指導を受け、1階にあるデイサービスセンターと合同で行っている。地域の救助マップに拠点施設として記載され、災害時の協力は、前後の家に協力をお願いし了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表に基づきバランスのよい食事を提供している。食事の摂取状況は、日誌に全量・半分等のおおよその記録をしている。また、糖尿病の入居者には、1日に決められたカロリーの食事を提供している。水分は、1日1200ccから1500ccを目安として摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には、正月は絵馬を書いて飾ったり、手作りの吊し柿や紅葉の枝を掛けたり、家庭的な雰囲気づくりを行っている。また、観葉植物や季節の花が活けられ季節感ある日々が送れるようにしている。浴室や調理室は清潔に保たれ、採光やテレビの音量が調整され、エレベーターホールにソファがあり何時でも休むことができるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備えつけのダンス兼押入があり、壁には長テーブルを兼ねた棚が備えられている。居室には、趣味の毛糸や編み棒があったり、孫の写真や人形が飾られたり、炬燵やテレビ、ダンスや机を持ち込んでいる等居心地よく過ごせるよう配慮されている。		